

トヨタ総行動に参加しました

東京公害患者と家族の会

事務局長 増田 重美



第38回トヨタ総行動は3月20日に行われました。例年は2月の建国記念の日に行われるのですが、今年は工場がストップするため一月ほどずらしての開催となりました。これに先立ち2月15日に要請行動を行い、東京から増田事務局長が参加しました。

当日は旗日、暖かい日よりとなり、あおぞら連絡会13人、患者会10人、弁護士2人の25人が参加しました。朝8時に新宿を出発、現地に12時30分に到着、名古屋南区の患者会と合流して、集会参加者に「新しい救済制度」の署名を訴えました。

集会では植松議長がトヨタ総行動には公害患者も参加していることを紹介し、公害患者を代表して増田事務局長が「経済活動、儲け優先の企業によって労働者も公害被害者も苦しめられている。企業に社会的責任を果たさせるため団結して頑張りましょう。」と挨拶を行い、愛知トヨタ本社に向け、「トヨタは社会的責任を果たせ、大幅賃上げせよ、公害被害者救済制度を作れ」とシュプレヒコールしながらデモ行進をしました。

42回公害総行動成功に向けて ～ 連帯・協同のとりくみ進む ～

理事長 吉川 方章

“なくせ公害 守ろう地球環境”のスローガンのもと、42年目を迎える公害総行動は、6月7～8日開催されます。東京あおぞら連絡会参加の各組織が、参加者組織・協賛募金のとりくみなどに健闘されていることに敬意を表します。

今回の主な課題は、大気汚染公害にフクシマ・アスベスト・ミナマタ。

又、よみがえれ有明・オスプレイ、基地なくせ・原発なくせ、ストップ温暖化など多様な課題があります。

ぜんそく患者の全国医療費救済創設を求める運動（請願署名、国会議員対策等）をしっかりと位置づけ、併せてこれらの闘いと連帯・共同して取組めます。

フクシマ原発訴訟は3月17日前橋地裁で「国と東電の責任を明確に認める全国最初の判決を出しました」。「巨大津波は予見でき、対策とれば事故は防げた」としたのです。福島の「生業を返せ！地域を返せ！」の裁判は3月21日結審、10月10日判決となりました。裁判進行中の首都圏千葉・埼玉・神奈川避難者訴訟をはじめ各地の闘いに大きな影響を与えるものといえます。

建設アスベスト神奈川訴訟は、第1陣の東京高等裁判が3月14日結審しました。夜、“きゅうりあん”での集会は、国と企業に「あやまれ つぐなえ なくせ アスベスト被害」の要求を高くかけ、西村弁護団長・原告・建設労働者・支援の報告・決意が一つになり、大きな盛り上がりがありました。建設労働者・土建組合との共同も進んでいます。

「ミナマタは終わっていない」水俣病公式発見から61年、新潟水俣病52年目をむかえ、新たな闘いが進んでいます。不知火患者会と熊本支援連は2月12日、2年後に勝利判決をとる「1000人集会を持ち決意を新たに」しました。東京から10人が参加しましたが、うち大気から4名を送りました。

新潟支援共闘会議は「あらためて国の責任を問う水俣病院内集会」を3月14日開催し、前新潟県知事、地元超党派の国会議員多数の参加を得て、闘う意思統一をしました。

埼玉では、アスベスト原告を中心に、大気・ミナマタ・フクシマの関係者が交流会を重ね、県要請・県議会各会派への懇談等の申し入れを共同で行っています。アスベスト原告2名はフクシマ現地調査に参加し、翌日、県議会要請に出ています。ミナマタ原告の迫田さん夫妻も頑張り、総行動への結集に努力しています。公害総行動成功に向け一層頑張りましょう。

口署名運動の到達点—東京目標5万突破にあと一息

3月27日現在、東京は4万1千名分を超え、大田・江戸川・文京が地域目標を突破しました。また全国では10万目標に対し、川崎・大阪・愛知などを含め6万名分を集約しています。

署名運動に力を集中し、8月末の次の節目までに必ず目標をやりきり、超過達成をめざしましょう。

口都条例認定患者数（2月末現在） ◇18歳以上 80,605名 ◇18歳未満 8,460名